



園の建物は2006年7月に新築したものの。35人の子どもたちがのびのびと遊んでいる

独立	起業のパターン
定年後	
早期	
主婦	
その他	
身近な 新分野	起業のベース

「こころ保育園」 森田美紀さん

おもな事業内容
保育園の運営

幼いころから、幼稚園の先生になりたいとの夢をもち続けてきた森田さん。大人になってからは自分の保育園をもつことを夢見て、さまざまな障壁を乗り越えながらもその夢を実現した。

幼少からの夢の実現へ

「大きくなったら幼稚園の先生になりたい」。幼いころに、そんな夢を描く女の子は多い。森田美紀さんも、そんな子のひとりだった。

もつとも、子どものころの夢が、成長とともに違うものに形を変えていくことも多かった。幼時の夢をそのまま大人になるまで持ち続け、実現させる人はむしろ少ないかもしれない。

森田さんは、その少ない部類の典型的のような人。自分が幼稚園児のころに抱いていた「せんせい」への憧れをそのまま持ち続けて幼稚園教諭となり、その後27歳の若さで自分の保育園（認可外保育施設）を開業させた行動力の持ち主でもある。

森田さんが短大の保育科を卒業して幼稚園教諭となったのは、20歳のときのことだった。勤め始めて間もないころから、いずれは自分の園をもちたいとの夢をふくらませていたという。

個人が幼稚園を新規開業するのはほぼ不

可能なため、現実を目指すのは保育園となるが「とにかく自分の保育園を実現させる場が欲しかった」と森田さんは語る。

「幼稚園にしろ保育園にしろ、保育に対する考えはさまざまです。教諭として勤めている限りは当然それに従うわけですが、私自身が理想的と考える保育を実現するためには、自分の園をもつしかない、と……」。

森田さんが理想と考えたのは、母親が安心して子どもを預け、仕事を続けることへの支えになる保育だった。そのために最初から24時間保育を考えていた。

出産と開園が重なって

2003年には岩見沢市内で開かれた起業セミナーに参加して経営の実務を学ぶなど、「自分の保育園」実現に向けて具体的な行動を始める。保育園に使う賃貸物件を探し始めたのもこのころのことだ。24時間対応、子どもを遊ばせる場所があり、賃貸料も予算内。こうした条件に合う物件を探すのは、容易なことではなかった。ようやく希望の物件が見つかった矢先、

森田美紀さんの これまでの歩み



- 1976 年根室市生まれ ●
- 1996 年、滝川市の短大の保育科を卒業して幼稚園教諭に ●
- 24 歳のとき結婚を機に岩見沢に。病院内の託児所に勤務 ●
- 2004 年 5 月《こっころ保育園》開園 ●
- 2006 年、新築の建物に移転

森田美紀さんへの Q & A

Q. ご主人の協力は？

A. 介護関係の仕事をしているため、人の世話をするという点では共通しているせいか、保育園を開業することは理解してくれました。出産を控えながら開園することにも反対はなかったです。

Q. 経理などの仕事は？

A. 私は苦手なのですが、給与計算などは自分でやっています。今は親戚の税理士に帳簿をみてもらっています。その方が税制面で有利な方法などアドバイスしてもらえるので…。

Q. “こっころ”という名前は？

A. 親や子供の“心”のつながりを大事にしたいとの思いをこめたものです。カタカナの名前なども考えましたが、結局これに決めました。

こっころ保育園

〒068-0042
岩見沢市北 2 条西 12 丁目 4-11
tel/fax 0126-22-9665



現在のスタッフは7人。「園長」の森田さんももちろん忙しく動き回る



丸いケーキをイメージした可愛い建物

自分自身の懐妊を知る。そのときはすでに物件の契約を済ませ、開園予定も立っていた。時期を遅らせた方がいいと、誰もが口を揃えたという。

森田さん自身も大いに迷った。しかし最終的には予定どおりの開園を決断する。長年の夢だった《こっころ保育園》がオープンしたのは、2004年5月のことだった。まずは5人を預かってのスタートだ。

森田さんの出産は、その年の二月。その時点で保育数は15人にまで増えており、森田さんは大きなおなかを抱え、産まれる2日前まで働いていた。出産前に体に不調が見付かって産後の入院が長引いたが、周囲の助けもあって、何とかこの大変な時期を乗り切ることができた。

大きな宣伝はしなかったが、その後の《こっころ保育園》の保育数は順調に伸びていく。口コミで評判が広まったことは、園の育児のやり方が評価されたことでもあり、森田さんとしては手応えを実感していた。

しかし2年目になって、園は大きな危機を迎えることになる。建物のオーナーが、建て替えを理由に退居を求めてきたのだ。

自前の建物を建てる！

「電話を受けたあと泣き出してしまった」というほどの大ショックを受けた。せっかく軌道に乗りはじめた保育園はどうなってしまう？……このピンチを乗り切るために下した決断は「自前の建物を建てる」ことだった。当然、大きな借入金を抱えるが、見方を変えれば、今後ずっと保育園を安定して続けていくための施設をもつ、転機でもあった。賃貸のスペースよりも、保育園として造られた建物の方が、育児の環境がずっとよくなることはいうまでもない。

2006年7月、新しい園の建物が完成した。建築家に設計を依頼した建物は1階を広い育児スペースに、2階を森田さん一家の住まいとした建物だ。ロウソクが並んだケーキをイメージしたという外観が可愛い。住まいと園が一緒になって通勤時間はずっと短い。仕事の間は頭から離れない大変さもある。

現在は35人ほどの子どもを預かっている。保母さんは森田さんのほか6人。全員が森田さんより年上のベテランだから「ず

いぶん助かっている」という。「本当は若いスタッフを入れて、育てていくことも必要なんですよけど……」と森田さん。

岩見沢市の保育施設は不足気味で、託児の需要はまだ多い。《こっころ保育園》も、今は施設もスタッフの仕事量も手一杯の状態だという。通常は朝7時30分から夕方6時30分までの預かりだが、24時間対応だから、森田さん自身が泊まりになることも月に5〜6回はある。

2歳になる森田さんの長男も保育園児として一緒にいるけれど、お母さんをなかなか独占させてあげられないのが、つらいところ。「もう少しスタッフを増やして楽になりたい」とは思うが、現状では厳しい。日々の仕事をこなすのが精一杯で、体制づくりのことをゆっくり考える余裕がもてない、という悩みもある。

「私たちの仕事は、預かった子どもたちを怪我もなく元気に、笑顔でお返しすることが何よりです」。

多くの働く母親の支えとなるやりがいを感じつつも、悩みもまた尽きず、森田さんの多忙な日々はまだ続く。